

見果てぬ夢

第2代代表 井上 孝

湘南ペガサスサッカークラブ結成40年ご同慶の至りです。クラブ結成25周年の頃、『湘南ペガサスのあゆみ』第2集に寄せた拙稿で「良い思い」について述べたことがあります。参加者は、サッカーに関して「良い思い」をしてきたことがあって、体力のある人は依然としてこのクラブで続けており、さらに同様の思いの、より若い人が次々とメンバーに加わっているからクラブが継続するのでしょうか。そして40年、運営者の努力で居心地のよいクラブとなっているからでしょう。まことに素晴らしいことです。

結成20年目頃でしょうか、クラブの拠点作り、つまりグラウンドとクラブハウスを持てたらいいなあという話が数人のメンバーの間で出ました。これには、試合場探しの苦労が一因にもなっていました。現在のようにサッカー協会公認の存在でなかった、シニアチームは、企業や学校のグラウンドをコネで借りることになり、日程も自由になりません。私もまた、かなり強引な借り方をしました。そんなとき、一定の広さの、現状グラウンドに近い用地がある金額で売りに出されたことから出た自前のグラウンドの話でした。株主会員権の形で、一人300万円で、名目会員を入れても80人の会員数がいればできそうだ、という感じでした。当時は30歳代後半から60歳前ぐらいまでの会員構成だったので、あながち実現不可能というものでもないかと思ったのです。結局、具体的な提案までに至らず、沙汰止みになってしまいましたが、今でも私は惜しかったと思っています。実現していたら、別のクラブライフが楽しめたでしょう。

残念ながら私は、70～73歳に諸事情から試合に参加できなくなり、現在は、60歳過ぎからやっていたカヤックを同好の士に誘われて海、川、湖で細々とやるだけですが、いつでも使えるグラウンドでしたら、試合の邪魔にならずにボールを蹴るぐらいはできたでしょう。あるいは、BBQをしたりビールを飲むこともできるでしょう。

湘南ペガサスが結成100年を目指し、企業がらみでない本当の意味のサッカークラブができたなら、日本シニアサッカーの伝説になりましょう。最後まで、「良い思い」をし続けることになりますね。夢は見続けます。